研究・調査報告書

分類番号		報告書番号	担当
A-141		21-096	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門　三浦克之

題名（原題／訳）

Evaluating risk for alcohol use disorder: Polygenic risk scores and family history
飲酒異常のリスク評価：ポリジェニックリスクスコアと家族歴

執筆者

Lai D, Johnson EC, Colbert S, Pandey G, Chan G, Bauer L, Francis MW, et al.

掲載誌

Alcohol Clin Exp Res. 2022 Mar;46(3):374-383. doi: 10.1111/acer.14772.

キーワード	PMID
ポリジェニックリスクスコア、家族歴	35267208

要　旨

目的：

ポリジェニックリスクスコア（PRS）が飲酒異常と飲酒異常の重症度のリスク評価に利用可能か、飲酒異常の家族歴に比べて有用かを検討する。

方法：

アルコール依存症の遺伝に関する共同研究（COGA）に参加したヨーロッパ系の集団で検討した。DSM-4 分類のアルコール依存または DSM-5 分類における飲酒異常に合致する 3451 人、および 21 歳以上で飲酒異常の既往歴のない対照 1616 人を対象とした。4842 人は飲酒異常の家族歴があり、2722 人は家族歴の有無不明、336 人は家族歴無しであった。飲酒異常の GWAS のメタアナリシスから PRS を抽出した。PRS と飲酒異常および重症度との関連を混合モデルで検定した。

結果：

飲酒異常症例では、対照に比べて PRS が高かった。PRS の最高 10 分位の飲酒異常のオッズ比は、全体で 1.96、家族歴有り群で 1.86 だった。PRS は、飲酒異常の家族歴を調整後も、飲酒異常およびその重症度と有意に関連した。

結論：

PRS と家族歴は、どちらも飲酒異常およびその重症度と関連した。